

姉妹都市提携 30 周年記念訪問を終えて

9 月 23 日午前 10 時過ぎに長崎市を出発し、雨模様が予想される中を香港へ。香港到着後、結団式が行われた。当日、香港を出発し、アムステルダムへ行くことになっていたが、台風 14 号接近のため空港閉鎖が決定し、香港に 1 泊することになった。

翌 24 日、台風の通過後、香港を出発し、最初の訪問地であったライデン訪問をキャンセルしてミデルブルフ市へ移動することになり、ミデルブルフ市主催による歓迎レセプションに出席した。

25 日は、ミデルブルフさるくによる市内視察を行い、その後、長崎より来られた市民による版画展オープニングに参加した。終了後、専用バスでブリュージュへ移動し、ブリュージュ市内視察の後、ルーアンへ移動した。

26 日は、長崎外海・ヴォスロール姉妹都市委員会とカーンで合流し、ヴォスロール村長も同席した中で、カーン記念館視察及び歓迎セレモニーに出席した。その後、ヴォスロールに移動し、姉妹都市記念式典に出席した。その中で、元外海町長の平野武光ホール開所式が執り行われ、平野元町長夫人が同席される中で、今、施行中のド・ロ神父が建設した「ソーメン工場」「修道院」等の文化財の復元に至っている模様を紹介し、5 年後の新装オープニングセレモニーへの出席を要請してまいりました。また、現在の工事状況を記録した記念誌を手渡し、「5 年後の再会を楽しみにしている」とのあいさつを行った。特に、名誉村長、現村長の優しいおもてなしを受け、地元の村民との友好を深めることができ、大変有意義であった。

姉妹都市記念式典終了後、バイユー市へ移動し、バイユー市役所表敬を行った。表敬では、ヴォスロール村関係者及び外海町の関係者も同席した中で、バイユー市第 1 助役と面会した。



バイユー市役所表敬

27 日は、モンサンミッシェル視察後、リスボンへ移動。

28 日の午前中は、リスボン市内のベレンの塔（世界遺産）、発見の塔、ジェロニモ修

道院（世界遺産）の3か所を視察し、特に、ジェロニモ修道院においては、遠き昔の修道院及び修道生活者の様子について説明を受けまして、とても素晴らしい世界遺産であるという認識を持った。

同日の午後からは、在ポルトガル大使館公使主催歓迎昼食会に参加し、長崎市における教会群等の状況等を含めて世界遺産への協力についてお願いをしてまいった。

29日は、ポルト市のソアーレス・ドス・レイス国立美術館、クリスタル宮庭園に植樹された被爆柿の木の視察を行い、その後、ポルト市主催歓迎レセプションに出席した。歓迎レセプションにおいては、以前、私が訪問しました会場と同じ市長公舎であったため、昔の思い出とともに、前回訪問した際にお会いしました友人とも親しくお話し、さらに友好を深めることができた。また、この日は、長崎市長主催夕食会が開催され、市民訪問団の皆様、ポルト第一副市長と懇談することができ、有意義であった。

30日、公式訪問団の最後の訪問となったユネスコ本部では、浦上教会から30年前に贈られた「長崎の被爆天使像」、そして「日本庭園」の視察を行った。その後、松浦事務局長ほかスタッフの皆さんと約1時間にわたって教会群等の世界遺産について意見交換をし、非常に貴重なお話をいただいた。特に、日本が申請をして今、継続になっている世界遺産の経過及び長崎県が申請をする教会群等々の違い、また、世界遺産に向けて、今後どういう点について努力をすればいいのかということのアドバイスを受け、非常に感銘を受けた。そのことを長崎市当局及び長崎県にも伝え、今後の活動の一助にしたいと思っている。

最後に、今回の公式訪問に際し、ご理解とご協力をいただきました関係の皆様方に心から感謝を申し上げます。